

国保匝瑳市民病院の早期建替を求める決議

国保匝瑳市民病院は、昭和46年建設で48年経過の施設建物と、昭和59年建設で35年経過の施設建物とがあり、著しい老朽化が進んでいます。また、人の命を救うための病院の建物が、耐震基準に適合せず、大地震の際には、倒壊または崩落する危険性があるレベルということで、大変危険で、内部への雨漏りも頻繁に起きています。

そのような現状の中、市が行った市民意識調査では、医療体制について「不安を感じる」人は全体の8割に上り、施策の満足度と重要度においても「医療体制の充実」は最も満足度が低く、また、重要度は最も高い項目となっており、本市の大きな課題です。また、「地域の医療環境への取組で、何が重要と考えますか」との問いに、一番として「市民病院の外来機能強化を図る」、二番目として「救急・休日・夜間医療の充実を図る」を上げています。

匝瑳市議会は、平成30年3月20日に、「市長、執行部においては、病院事業の要である医師確保、経営形態の見直し、近隣病院と経営統合など、あらゆる検討を直ちにし、病院事業の改善を、期間を決めて行うことを求める」決議をしました。しかし市執行部においては、いまだ、何ら動きはありません。

ますます進む地域の高齢化に加え、新型コロナウイルス感染症禍の中で、国保匝瑳市民病院の果たす役割の重要性は、増すばかりです。

菊地匝瑳市民病院事業管理者が、市議会で「病院のないところに、住民は住めないという、考えています。」「病院なくして、本当に住民の生活、それから健康な毎日が、保てませんので、」と言う発言をしています。

匝瑳市民病院は閉鎖するわけにはいきません、近隣の銚子市立病院のように、一度運営休止してから、再開することは、困難が多すぎます。しかし、施設建物が現状のままでは、いずれ閉鎖せざるを得ず、病院としての事業継続が危ぶまれます。

そこで、早急に、施設建て替えの検討に入り、建て替え整備に着手することを、市長に求めます。

以上、決議する。